

中国語の助詞「的」と日本語の 助詞「の」の同異点について

金 春 子

Concerning the differences and similarities between the Chinese postpositional particle “de” and the Japanese postpositional particle “no” .

Chun Zi Jin

The Chinese and Japanese people both think the Chinese postpositional particle “de” is the same as the Japanese postpositionnal partiole “no”

But the two postpositional particles are different in many ways.

I will compare the differences, similarities and functions of both particles in the model sentences.

はじめに

ある時、私は中国語を勉強するある日本人に「中国語を勉強するには何が一番難しいですか」と聞いたら、あの人は「助詞が難しい。特に“的”の使い方がほんとうに複雑で困るんです。意味と日本語の“の”と同じぐらいだけど、使い方に違うところがたくさんあるのよね」と答えた。確かに中国語の助詞「的」と日本語の助詞「の」と役割がほぼ同じである。日本人も中国人もよく「的」を「の」と同じものだと思っている。しかし、二つの助詞は違う点もたくさん存在している。この二つの助詞は限定語と体言化されたものとしての役割が一番似ているからここでの使い間違いも一番多い。だからこの二つの面から例をあげて「的」と「の」の同異点について比較してみたい。

一. 限 定 語

中国語の助詞「的」も日本語の助詞「の」ももっとも重要な役割は限定語として使われていることである。

1. 所属、所有を限定

例：文学部的学生／文学部の学生

学校的図書館／学校の図書館

他的書／彼の本

我的母親／私の母

ここで「的」も「の」も二つの体言の間に入れて所属関係を表す。つまり二つの助詞は接続の位置も役割も全く同じである。しかし、日本語は所属関係を表すには前の体言は必ず「の」の助けによって後の体言を修飾しなければならない。だが、中国語「的」が省略される場合もある。例えば定語となる体言が中心語と親近・身近な隷属関係にある場合「的」が省略されるのが普通である。「私の父親／我父親」「彼の家／他家」「私の恋人／我朋友」のような文はその例である。もちろん「的」を入れてもいいが、入れたら前の定語を強調する感じがする。

2. 性質・材料を限定

例：无産階級的政党／プロレタリアの政党

中国的山水画／中国の山水画

毛料的西服上衣／ウール地の背広

絹的花／絹の花

ここでも「的」と「の」の接続の位置や役割が同じである。ここでは「政党」はプロレタリアを代表しプロレタリアの特性を持っている。「山水画」は中国の特有の絵で国画と呼ばれるものである。中国の「山水画」は中国に属しているものではなくて中国の国画の特徴をもっているものである。だから、このときの「的」と「の」は体言に付いて後に付いている体言の性質を示す。後の二つの例文は「背広」は「ウール地」でつくったもので、「花」は「絹」でつくったものだから「的」と「の」は材料を表している。実は中国語は材料は定語となる場合、材料を表すものが中心語と直接に接続し定語と中心語が一つの熟語になる。しかし日本語は材料を表すものは「の」によって中心語を修飾しなければならない。例えば「皮包／皮のかばん」「金表／金の時計」「石橋／石の橋」などの文はそうである。上述の文のように、日本語の文は「の」を付けなければならないが、中国語の文では材料を強調したいときにのみ「的」を使う。

3. 同格の関係を限定

例（１）今天是你的司儀／今日はあなたが司会者だ

做為部長的老李／部長としての李さん

（２）友達の田中君／朋友田中

息子の太郎／兒子太郎

会長の小林さん／会長小林

ここで「你」と「司儀」,「部長」と「老李」,「友達」と「田中君」,「息子」と「太郎」,「会長」と「小林さん」はすべて一つのもので同格の関係である。ところが、例を見ると中国語は定語は文のばあい「的」が必要であるが、単語のばあいは要らない。「的」が付いたら、かえって意味が通じなくなる。しかし、日本語のほうは定語は文と単語いずれにしても「の」が付けなければならない。

4. 状態を限定

- 例（１）剛烤好的面包／焼き立てのパン
帯花紋的裙子／花模様のワンピース
盛開的花／満開の花
雪白的皮膚／雪の肌

「的」と「の」は役割が同じで、両方とも後に付いている体言の状態を表す。しかし、「的」の前は文も動詞も形容詞も付けられるが、「の」の前は名詞しか付けられない。

- 例（２）一屋子的人／一部屋（いっぱい）の人
一箱一箱的衣服／一箱一箱の衣服
一隊一隊的人馬／一列一列の人と馬
十五歲的少女／十五才の少女

「一屋子的人」は部屋に人がいっぱいいる意味で、「一箱一箱的衣服」はたくさんの箱に衣服が詰められている意味である。「一隊一隊的人馬」も人と馬がたくさん並んでいる意味だから、このときの数量詞は数を示すより、状態を表している。

- 例（３）鮮紅的花／真赤な花
高大的身材／高くて大きい身体
幸福的生活／幸せな生活
登山的人／山を登る人

「的」は形容詞、動詞の後に付いて状態を表すことができるが、日本語は動詞、形容詞、形容動詞自身の語尾の変化によって名詞を修飾する。つまり「の」が用言の後に付いて状態を表すことができない。

- 例（４）格外的顯眼／極めて目立つ
非常非常的渺小／非常に小さい
再三的叮囑／何度もの言い付け

副詞の後に「的」が付いているのが「の」が付いていない。実は中国語でもごく少数の副詞だけが「的」の助けによって後の言葉を修飾することができる。おおかたの副詞は限定語になれない。この点は日本語と同じである。

5. 範囲を限定

- 例（１）古代史的研究／古代史の研究
（２）王府井的百貨商店／王府井のデパート
（３）上月的帳單／先月の勘定
（４）五公斤的米／五キロの米

（１）は研究する内容の範囲を示し、（２）は場所の範囲を示している。（３）は時間の範囲を、（４）は数量の範囲を表している。だから「的」も「の」も場所とか時間とか数量などを表す体言の後について、いろんな範囲を限定することができる。

6. 目的を限定

- 例 (1) 回去的票／帰りの切符
(2) 買菜的錢／野菜を買うお金
(3) 学習用的收録机／勉強に使うテープレコーダー
(4) 治暈船的藥／船酔いの薬

「的」は目的を表す動詞について後の言葉の目的を限定する。「の」も動名詞（動詞の性質をもっている名詞）の後に付いて後の言葉の目的を表すことができる。たとえば例(1)と(4)の「の」また「買物のお金」の「の」、「炊飯の器具」の「の」のような使い方は目的を表すものである。

7. 主体の動作と動作の主体を限定

- 例 (1) 来的人／来る人 来た人
写的信／書いた手紙
去的学校／行く学校 行った学校

「的」が動詞の後について主体の動作を表す。主体の動作と言っても「来的人」の「来」は「人」自身の動作だけれども、「写」と「去」は主語が発した動作である。しかし「信」と「学校」は「写」と「去」の目的だからやはり動作の主体となっている。

- 例 (2) 桜の咲くころ／櫻花開放的季節
父の帰りを待つ／等待父親的回来
彼のつくった料理／他做的飯菜

ここで日本語の例文は「咲く」のは「桜」であり、「帰る」のは「父」であり、「料理」をつくったのは「彼」である。したがって、「の」はここで動作の主体を限定する。右の中国語の例文もすべて「的」が付いているが、ここでの「的」は中心語の「季節」、「回来」「飯菜」の定語になっているから「の」とは違う。

8. 動作の対象を限定

- 例：請他的客／彼を招待する
生他的气／彼のことを怒る
開他的玩笑／彼に冗談を言う
找我的麻煩／私にうるさくからみつく

「動詞＋人称代名詞＋的＋名詞」という形で、動詞と名詞はもとは一つの動賓詞組のばあい、人称代名詞は動作の対象になる。つまり、動作の受け身である。「の」はこういう役割をもっていない。

以上は例によって限定語としての「的」と「の」の同異点を示した。二つの助詞の置かれた位置と役割がほぼ同じでも、「的」は使えるが「の」は使えない。反対に「の」は使えるが「的」は使えないこともあるのである。

二. 形式体言

中日の助詞「的」と「の」は限定語のほかに単語とか文の後について体言化されたところも似ている。次はその同意点を比較して見る。

1. 人を表す

例：我們村里来了个送報的／われわれの村に一人の新聞を配るの（配達夫）が来た。

会場很熱鬧，有說的，有笑的／会場はたいへんにぎやかだ。笑うのもあるし，話すのもある。

正在写字的是小李／字を書いているのが李さんです。

「的」は動詞とか動賓詞組の後について（ほかの品詞にも付けられる）人を代表するけれども「の」は必ず用言の連体形に付いて人を示さなければならない。

2. 物を表す

例：紅的是玫瑰／赤いのはバラだ

兩個的是山田的／二つのは山田さんのだ

我做的是這個／私のつくったのはこれだ

ここで「的」と「の」はどれも体言と用言の後について物を表している。

3. 事を表す

例：他来的很晚／彼が来るのがたいへん遅い

誰干的？／誰がやったのですか

你打消去的念買禱／行くのをあきらめてください。

ここで「的」と「の」は動詞の後について、来ること、やったこと、行くことを表す。

「的」は普通構造助詞と言われ、いろんな品詞及び連語の後について新しい言葉を組み立てることができる。「的」によって構成されたことばは名詞の働きをもっているから体言化されたと言う。「の」も体言，用言の後について「人，物，事」を代表することができるから形式体言と言われている。

おわりに

上述は限定語と体言化された二つの面から「的」と「の」の同異点を比べてみたものである。同じ限定語として「的」はすべての品詞の後について後のものを限定することができるが、「の」は体言の後についてものを限定しなければならない。また、両方とも人，物，事を代表することができる。「の」はほとんど用言の連体形の後につくが、「的」はいろんな品詞，詞組そして文の後につけられるから「の」より使われるのがもっと幅が広い。

（平成2年10月31日 受理）